



2019・12・1

第 358 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

改憲派の「草の根」に負けない対話と宣伝

政治の私物化への抗議と合わせ

【青森県／青森県九条の会等】 「安倍首相に憲法を語る資格なし」「ウソつく首相はさっさと辞めろ」。大粒の雨と寒風の中、青森市の青い森公園で 11 月 19 日昼、市民集会が開かれ、参加者 90 人が怒りの声をあげました。

主催は、2014 年から戦争法反対・廃止、安倍 9 条改憲阻止へ連帯し、草の根の運動を広げてきた青森県九条の会、市民連合あおもり、青森ペンクラなど 10 の民主団体と日本共産党、社会民主党のあわせて 12 団体。

集会では、予定していた「アベ改憲、絶対阻止！」「自衛隊中東派兵反対」に加え、急きょ、安倍首相の「桜を見る会」の私物化疑惑に抗議し、真相究明を求める緊急アピールを採択しました。

参加した戸川雅子さんは「『桜を見る会』の問題は保守も怒っているはず。絶対に、許されないし、徹底的に安倍政権を追い詰めた」と語りました。

集会後、雨がみぞれとなる中、参加者は市内をデモ行進。

「ねらいはあくまで九条」と首相

○前原誠司（国民） …僕は中味がないとしか、今までの経緯をみていたら思えないのですけれど、何がやりたいんですか。

○安倍首相 …今出している四つのイメージ、これは四つとも私が出したものではありません、私が申し上げたのは、まさに九条において自衛隊を明記する、一項、二項を残した上において、一項、二項の制約を受ける中においても自衛隊を明記すべきではないか、こういう考え方を示したわけでありまして。…これ以上私が余り、物すごい意欲を示すことはかえってマイナスだという、友情的なご議論をされる我が党の人たちがいるものですから、若干不愉快ではありますが、それも一理ある、こう思わざるを得ないので、私はこのように申し上げているところであります。（10 月 11 日、衆院予算委）

拳の代わりに傘を高くあげて「退陣、退陣」と唱和していた男性(64)は「安倍政権の友だち優遇は前からだが今回は公選法違反

が濃厚。許しちゃいけない」と憤ります。

坂本麻衣子さん(37)は「SNSでは『桜を見る会の何が問題なの?』の声も多い。マスコミは今だけでなく、繰り返し報道して追及してほしい」と訴えました。

地域単位の行動も継続的に積み上げ

【青森市／9条を守る茶屋町の会】 青森市の9条を守る茶屋町の会は11月8日、寒風の強いなか街頭宣伝に取り組みました。寒さに負けずに頑張ろうと7人が横断幕や旗を掲げて参加しました。

門倉昇会長は「安倍内閣は改憲推進体制を強化するため、全国で演説会や大規模集会を開く計画、草の根から改憲世論づくりをすすめようとしています」と指摘。「私たちは今まで以上に街宣、署名、集会などで反対世論を盛り上げ、改憲発議を止めましょう」と訴えました。

対話も地域と密着した話題で

【新潟県／新潟県9条の会】 新潟県9条の会は11月17日、安倍9条改憲を許さない取り組みを強めようと、新潟市内で全県交流会を開催しました。県内15の「9条の会」代表が参加し、活発に議論しました。

事務局長の工藤和雄さんは、参院選後に自民党が小選挙区ごとの改憲集会の開催を指示したとして、「私たちもたたかいを再度活性化することが求められている。9条の会の原点に立った『一点で手をつなぐ』運動をしよう。生活に密着した話題を切り口に、地域で対話しよう」と提起しました。

事務局の川俣幸雄さんは、「9条の会の活動が、地域の党派を超えた信頼関係を築き、

その後の共同を発展させる土台をつくった」と強調。「野党は連合政権を」という流れをつくり出すために、「憲法を生かそう」とアピールする新たなポスター運動を提起しました。

各地の「9条の会」が取り組みを報告。

「加茂・九条の会」の代表が、「週2回のスタンディングが500回を超えた」と発言すると、会場から驚きの声が上がりました。

「東区女性9条の会」(ラベンダーの会)代表は、「4人の世話人で1年前に立ちあげ、毎月憲法を学習している。学ぶ中で、国民は憲法を守らせる側」と分かった人もいる」と紹介。「九条を守る長岡の会」代表は、「署名の地域ローラー作戦を再開した。継続は厳しいが、担い手を増やしたい」と発言しました。

まとめで工藤さんは、「怒りだけでは支持は得られない。希望を語り、元気が出る活動を進めたい」と話しました。

署名活動も他団体に呼びかけて

【前橋市桂萱地域／かいがや9条の会】

かいがや9条の会「13周年記念のつどい」が9月8日に開かれ、飯田至弘さんが活動報告をしました。

桂萱の全地域での「九条署名」活動を2008年からおこない、「3000万署名」と合わせ2018年11月までに120回の署名活動で参加者606人、署名数の合計は3021筆です。

署名数は桂萱地域人口の4分の1の目標の半分。そのため各団体に声をかけて署名団体「かいがや市民の会」を7団体で2019年2月発足させて、新しい活動をはじめました。3月からこれまで毎月署名活動をし

て7回143筆の署名を集めました。

つづく「つどい」第2部の講演会では「認知症をとおして、社会保障、平和について考える」という演題で認知症と家族の会で活躍している田部井康夫さんにお話をいただきました。（「九条の会群馬ネットワークニュース」10月30日）

文化・芸術の面でも9条を語る

【三重県伊勢市／いせ文化9条の会】11月16日、「いせ文化9条の会」が日本と朝鮮の関係を学ぶ学習会を開き、約50人が参加しました。同会は、伊勢市で芸術や文化の面でも9条を守ろうと、毎年企画しています。

学習会は「一衣帯水・日本と朝鮮（韓国）」と題して、[浪速の歌う巨人]ことミュージシャンで在日韓国人2世の趙博（バギヤン）氏が講演しました。

趙氏は、日本と朝鮮の関係の歴史を古代から日本の敗戦までを紹介。日本政府は植民地問題を解決済みとしているが、徴用や強制連行で日本居留を余儀なくされた人に対する国内的補償がされていないこと、従軍「慰安婦」問題など、日本政府が戦後責任を回避し続けてきたと批判し、日韓友好のためには、ここに目を向けて解決すべきだと訴えました。

趙氏は講演のあと、日本の朝鮮植民地支配を歌った歌などを披露しました。

参加した女性（47）は「日本と朝鮮の関係の歴史や両者を戦争に駆り立てた歴史も学んだ。今の時代をみると、戦前のような歴史を繰り返す恐ろしさがある」と語りました。男性（58）は「日本の植民地支配の

歴史を勉強することができた。敵対するのではなく、憲法の理念を生かして話し合いの中で日本と朝鮮は仲良くすべきだ」と述べました。

「孫が憲法条文の朗読」に学んで

【神奈川県厚木市／森の里・九条の会】

朝からひさびさの青空。森の里スーパー前での10月26日の署名活動。今日はOさん、Iさん、Hさんと私の4名でいつもの様に二手に分かれてスタート。

昨年2018年4月22日から第4土曜日午前10時から1時間を目安に「安倍9条改憲NO! 3000万署名」と「核兵器廃絶国際署名」をそれぞれ500筆を目標として始めた取り組みは今回で18回目。

出だしは芳しくなかったが、美しいうろこ雲を見上げては深呼吸で気を取り直す。スーパーに入ろうと入り口に近づいてくる人や、買物袋を提げて出てきた方々に呼びかけてお願いをする。

署名活動で嬉しいのは「ご苦労様」や「頑張ってくださいね」の声掛けだ。署名をされている方の手元を見ていると月に何回かはここに買い物に来るとのこと。署名をしてくださる方は森の里の住人だけでなく、平塚、座間、伊勢原、清川等、市内でも飯山、七沢からこのスーパーに来るのだとのこと。

あいさつの後、署名を終えた顔見知りのご婦人が嬉しい話を聞かせて下さった。「うちの5才の係に今、日本国憲法の朗読をさせているんです。勿論意味が解かる訳はないのですが、でも言葉の調子などで読むことを結構楽しんでますよ。私は全文読ませ

たいと思っています。だって、日本の宝ですもんね」。私は来月の例会で私たち森の里・九条の会でも憲法条文の朗読を提案したくなった。

この日は4人で「3000万署名」が25筆、「核兵器廃絶」が30筆の成果だった。今迄との合計で各々470筆、515筆となった。

(森の里・九条の会代表 平川高人 「あつぎ・九条の会」No157)

戦争体験聞く会に小学生も

【群馬県長野原町／西吾妻・九条の会】

「戦争を知らない若者たちへーみんなで知ろう戦争のこと」講演会を8月24日、長野原役場新庁舎の大ホールで開きました。講師は2015年にニューヨークの国連本部で被爆体験を訴えてきた東條明子さんです。

参加者約60名の中に若者は少数で高齢者が多かったのですが、(最近はどんな集まりでもこのような傾向のような気がします)、当時10歳できこ雲を見た東條さんの「核兵器と戦争のない世界にしようとお話は心に響くものでした。東條さんはお坊さんですので、「殺してはならぬ、殺されてもならぬ」「兵戈(ひょうが)無用」(=兵も武器もいらない)「怨みが怨みで終わることはない」と話しました。

当日、一人で参加した小学生がいました。「やっぱり頑張ってたよかったネ」(草津町・赤尾拓子「西吾妻・九条の会ニュース」9月号)

全国首長九条の会結成に寄せて

稲嶺 進 (前沖縄県名護市長)

今日も悲鳴とも怒号ともつかない悲痛な叫び声が響き渡る。そこは、日本政府が言

う「辺野古が唯一」として、普天間飛行場の代替施設建設が強行されている米軍キャンプ・シュワブゲート前であり、大浦湾の海上であり、塩川港、安和の琉球セメント栈橋前の日常の光景である。敗戦から74年、日本復帰してから47年が経過した今なお続く沖縄の「異常」な現状である。憲法が保障する平和主義や民主主義、地方自治や住民自治はおろか基本的人権さえも蔑ろにされ、更には権力を監視するはずの三権分立も今や形骸化し「忖度」ばかりがはびこる強権政治のなせる業である。

振り返って、1952年4月28日発効のサンフランシスコ条約締結で日本は独立・主権を獲得した。しかし、その見返りに奄美以南・沖縄を米軍の占領下に提供(質草・担保)することで実現したのは紛れもない事実である。それからの27年間沖縄は、日本でもない、アメリカでもない。いびつな政治形態が続いた。その4月28日は沖縄にとって「屈辱の日」として県民の心に刻み込まれている。以来、異民族支配の苦渋・苦難の中で立ち上げた「祖国復帰協議会」であった。当時の復帰運動のスローガンは「平和憲法のもとに帰ろう」であった。まさしく「九条」を念頭に希望を託し、県民の思いが集約された運動であった。

しかし、世界に誇る平和憲法が今危機にさらされている。ヴァイツゼッカー元大統領の言葉に「歴史を変えたり、無かったりすることはできない。過去に目を閉ざす者は現在に対しても盲目となる」歴史に学ぶことの大事さを説いたものだ。安倍首相に届けたい言葉だ。(全国首長九条の会結成の集いへのメッセージ)